

科目名	共生社会と法 Co-existence Society and Law						
科目担当者	今枝 昌浩 IMAEDA Masahiro						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	我々が日々生活を送る社会には、時代や意識の変化に伴って、これまで当然視されていたがゆえに認識されて来なかった、あるいは見過ごされてきた問題が生じることがある。この授業では、そうした社会問題について法的な観点から、原因を考察するとともに、現時点における対応・議論を確認することで、これからの問題の所在について認識を深める。						
授業の到達目標	①現代において解決すべき或いは議論されている法的問題を具体的に説明できる。 ②個々の問題がなぜ生じているのか（原因）について説明でき、それを解決するためにどうすべきか自ら考えることができる。						
授業計画・内容	1	ガイダンス					
	2	人権とは何であったか					
	3	神様を信じているのはヘンですか：信教の自由の原点					
	4	政教分離原則とその悩み					
	5	尊厳死または安楽死は許されないのか：その法的原因					
	6	日本における新型コロナウイルス感染症の法的対策とは何であったか					
	7	日本国内における外国人と日本人に関する法的取り扱いの差					
	8	国内における差別とその対応：アイヌの人々および部落差別を中心に					
	9	日本におけるヘイトスピーチとその法的対応					
	10	性別の変更とその要件					
	11	同性婚が許されない法的原因とこれまでの訴訟の展開					
	12	クォータ制とその悩み					
	13	障がいのある人々に対する差別：学習権を中心に					
	14	受刑者であれば自由はどこまでも制限可能か					
	15	犯罪被害者の法的救済と現状					
授業外学修 (事前学修)	事前にアップロードする資料（レジュメ）に目を通し、扱われている法的問題について予めリサーチしておくこと（毎週2時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	授業内で行った、あるいはレジュメに記載されている、問い掛けに対して自身の言葉（文章）で答えられるようにしておくこと（毎週2時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	授業内での「小テスト」および授業参加姿勢 レポート				20% 80%		①② ①②
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	特に指定しない。						
参考文献	横藤田誠・中坂恵美子『人権入門』第4版（法律文化社・2021年） 山元一（編著）『トピックから考える日本国憲法』（北大路書房・2023年）						
その他	この授業を受講するに当たっては、『憲法（人権）』の講義を履修済みもしくは履修中であることが望ましい。また、普段から新聞やニュース等で社会問題に触れて問題意識を培っておくとよい。なお、上記以外の参考文献については、その都度授業内で案内する。						